

## ● プレコール持続性せき止めカプセル

## 【使用上の注意】

 使用上の注意 してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)

1. 次の人は服用しないで下さい。  
本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないで下さい。  
他の鎮咳去痰薬、かぜ薬、鎮静薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等(鼻炎用内服薬、乗物酔い薬、アレルギー用薬等)
3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないで下さい。  
(眠気等があらわれることがあります)



## 相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。
  - (1) 医師の治療を受けている人
  - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人
  - (3) 授乳中の人
  - (4) 高齢者
  - (5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
  - (6) 次の症状のある人  
高熱、排尿困難

## 【解 説】

1. 共通事項解説〔1〕参照
2. 共通事項解説〔2〕参照
3. 抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)、デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物は眠気を生じる可能性があるため、重大な事故につながるおそれがあります。
1.
  - (1) 共通事項解説〔4〕参照
  - (2) 共通事項解説〔5〕参照
  - (3) dl-メチルエフェドリン塩酸塩は母乳に移行することが知られています。  
乳児への具体的な有害反応は不明で、安全性は確立されていないため、服用前に専門家に相談して服薬指導等の指示を受ける必要があります。
  - (4) 共通事項解説〔6〕参照
  - (5) 共通事項解説〔7〕参照
  - (6) 記載されている症状のある人は、下記のような理由で服用前に相談が必要です。
    - 高熱  
かぜ以外のウイルス性の感染症やその他の重篤な疾病も考えられます。
    - 排尿困難  
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)の抗コリン作用により、膀胱の緊張が減少することがあるため、症状が悪化し、さらに尿が出にくくなるおそれがあります。また、前立腺肥大がある場合には、尿閉があらわれるおそれがあります。

## ●プレコール持続性せき止めカプセル

### 【使用上の注意】

- (7) 次の診断を受けた人  
心臓病、高血圧、糖尿病、緑内障、  
甲状腺機能障害

2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
呼吸器	息苦しさ、息切れ
泌尿器	排尿困難

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
再生不良性貧血	あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

### 【解 説】

- (7) 記載されている疾患の診断を受けた人は、本剤に配合されている成分により、病状が悪化するおそれがありますので、服用前に相談が必要です。

- 心臓病、高血圧  
dL-メチルエフェドリン塩酸塩の交感神経刺激作用により、血圧を上昇させ、心拍数を増加させるため心臓に負担がかかり、心臓病、高血圧を悪化させるおそれがあります。
- 糖尿病  
dL-メチルエフェドリン塩酸塩の交感神経刺激作用により、肝臓のグリコーゲンが分解され血糖値が上昇し、悪化するおそれがあります。
- 緑内障  
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)の抗コリン作用により、房水流水路が狭くなり、眼圧が上昇し、緑内障を悪化させるおそれがあります。
- 甲状腺機能障害  
dL-メチルエフェドリン塩酸塩の交感神経刺激作用により、甲状腺機能亢進症(動悸、発汗、手のふるえ、いらいら等)の症状を悪化させるおそれがあります。

2. 例示したような副作用症状が起こる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、症状の増悪や重篤な副作用への移行を未然に防ぐため、直ちに服用を中止し、服用している薬剤の成分等がわかる添付文書を持参の上、専門家に相談する必要があります。

下記のような重篤な症状があらわれたら、直ちに服用を中止し、医師の診療を受ける必要があります。

- ショック(アナフィラキシー)  
重篤な症状の解説〔1〕参照
- 再生不良性貧血  
クロルフェニラミンマレイン酸塩により起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔11〕参照
- 無顆粒球症  
クロルフェニラミンマレイン酸塩により起こることがあります。  
重篤な症状の解説〔12〕参照

## ●プレコール持続性せき止めカプセル

### 【使用上の注意】

3. 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

口のかわき、眠気

4. 5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

### 【用法・用量に関連する注意】

1. 用法・用量を厳守して下さい。

2. カプセルの取り出し方

右図のようにカプセルの入っているPTPシートの凸部を指先で強く押し、裏面のアルミ箔を破り、取り出して服用して下さい。  
(誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さる等思わぬ事故につながります)



### 【保管及び取扱い上の注意】

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。
3. 他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり品質が変わります)
4. 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

### 【解 説】

3. 一過性の軽い副作用があらわれることがあります。直ちに服用を中止する必要はありませんが、症状が持続したり増強する場合は、服用を中止して専門家に相談する必要があります。

- 口のかわき

抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)により、唾液の分泌が抑制されてあらわれることがあります。

- 眠気

抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)、デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物により、あらわれることがあります。

4. 5～6回服用しても症状の改善がみられない場合は、他の疾患や合併症も考えられるので、服用を中止し、専門家に相談する必要があります。

1. 共通事項解説〔8〕参照

2. 共通事項解説〔10〕参照

1. 共通事項解説〔11〕参照

2. 共通事項解説〔12〕参照

3. 共通事項解説〔13〕参照

4. 共通事項解説〔17〕参照